

## 令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

## 1 組織

(1)都立南葛飾高等学校 学校運営連絡協議会(全日制課程)

(2)事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、教務部員1名 計2名

(3)内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主幹教諭(総務保健担当) 計6名

(4)協議委員の構成

保護者代表1名、近隣中学校長1名、葛飾区教育委員会1名、地域住民代表2名 NPO 法人代表1名計6名

## 2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1)学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和6年6月18日(火)午後3時45分から午後4時45分 内部委員6名、協議委員4名

授業見学、協議委員委嘱、協議委員紹介、評価委員の選出、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、本校の現状と課題(各分掌の主任より)、意見交換

第2回 令和6年10月29日(火)午後3時45分から午後4時45分 内部委員6名、協議委員4名

授業見学、これまでの教育活動に関する報告(各分掌の主任より)、学校評価の基本方針の検討、協議

第3回 令和7年2月4日(火)午後3時45分から午後4時45分 内部委員6名、協議委員5名

授業見学、本校の現状と課題(各分掌より)、学校評価の結果報告

(2)評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和6年6月18日(火)午後3時45分から午後4時45分 内部委員6名、協議委員4名

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価実施結果・分析に関する報告と検討

第2回 令和6年10月29日(火)午後3時45分から午後4時45分 内部委員6名、協議委員4名

学校評価アンケートの評価項目の検討、学校評価実施に関する日程の検討

第3回 令和7年2月4日(火)午後3時45分から午後4時45分 内部委員6名、協議委員5名

学校評価アンケートの実施結果報告

## 3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1)学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2)アンケート調査の実施時期・対象・規模

|                |      |         |         |
|----------------|------|---------|---------|
| ・12月 全校生徒      | 685人 | 回収:472人 | 回収率:69% |
| ・12月 保護者全員     | 685人 | 回収: 77人 | 回収率:11% |
| 1月 教職員         | 42人  | 回収: 34人 | 回収率:81% |
| ・12月 近隣中学校(生徒) | 103人 |         |         |
| ・12月 近隣中学校(教員) | 26人  |         |         |

(3)主な評価項目

・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備など

(4)評価結果の概要

・昨年度同様に、地域(近隣中学校教職員及び2学年生徒)にもアンケートを実施した。

・「学校生活は、充実していますか。」について、生徒の肯定的な割合は87%、「お子様にとって、本校での学校生活は、充実しているように感じますか。」について、保護者の肯定的な割合は90%、「あなたから見て、都立南葛飾高校の学校生活は、充実しているように見えますか。」について、地域の肯定的な割合は72%、「生徒の学校生活は充実していますか。」について、教員の肯定的な割合は56%であった。概ね肯定的であるが、生徒・保護者と教員の感じ方にやや差異がある。

・「服装、頭髪等の身だしなみについて、学校のルールを守っていますか。」について、生徒の肯定的な割合は92%、「本校の服装指導、頭髪指導など身だしなみに関する指導は、お子様の基本的な生活習慣をつけるために、役立っていると思いますか。」について、保護者の肯定的な割合は83%、「身だしなみに関する指導について、積極的に実践していますか。」について、教員の肯定的な割合は74%であった。一方で「都立南葛飾高校の生徒の服装、頭髪など身だしなみは、高校生として整っていると思いますか。」について、近隣中学校(教員)の肯定的な割合は35%であり、近隣中学校からは否定的な意見が半数を超えた。保護者は本校の指導と現状を肯定的にみているが、学校の外から見ると、身だしなみが整っていないという意見が上回った。

- ・「本校の教職員が、仕事と家庭生活を両立させる「ライフ・ワーク・バランス」の実現に取り組んでいることを知っていますか。」について、肯定的な割合は生徒で65%、保護者で65%であった。「『ライフ・ワーク・バランス』の実現を図っているか。」について、教員の肯定的な割合は48%であった。

(5) 評価結果の分析・考察

- ・全体的に見て肯定的な割合が決して低いわけではないが、引き続き教職員が一丸となって生活指導・学習指導・進路指導等に取り組んでいくべきだと考える。学校で身に付けるべき力を丁寧に指導し、学校に対する期待感を維持し高揚させていく教育活動を構築する必要がある。
- ・学校評価アンケートの結果から、本校での取り組みが外からは見えにくいということがわかった。  
まず、生徒会との校則改正をより一層推進・確定し、その規則に基づいた生活指導を全校体制で行い、生徒と保護者に対して、学校の取り組みについて公式SNS等で発信し続けることが理解と協力に繋がる。また、情報発信を意図的・計画的に実施することが、地域に学校や生徒の現状について理解していただけると信じている。
- ・保護者のアンケート回収率を高めていく必要がある。次年度からは2学期学年保護者会でのアンケート配布を行い、Forms での回答について、直接的な協力依頼を行い、回収率を増加させる。
- ・生徒や保護者にも「ライフ・ワーク・バランス」に対するより一層の理解促進及び周知が必要である。また、私たち教職員も既存の「方法」や「当たり前」にとらわれないマインドセットが必要である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題(学校の自己評価へ反映)

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒の授業についてのアンケート結果から、教員が生徒の興味関心を引き出すような授業を提供できるよう、授業改善に向けた教科内での授業検討や授業研究の充実が必要であることを再認識した。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・近隣の住民は、学校の教育機能をより一層活用したいと望んでいることが分かった。また、生徒の規範意識の醸成しつつも、学校に通いたくなる取組を検討する必要がある。
- ・より適正な評価を行うためには、協議委員に対して、より多角的な情報提供を行う必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価活動を活用した教育活動の改善

(1) 学校運営

地域の小・中学校との交流や人材育成を含めて、区教委との学校間連携を進めていく。また、地域企業とも連携を進め、地域に愛される学校づくりを推進していく。

(2) 学習指導

探究的な要素を授業内に取り入れるとともに、少人数指導・習熟度別指導を中心とした生徒一人一人に対応できる学習環境を維持し、学習に苦手意識を持つ生徒の学習意欲を高めていく。

(3) 生活指導

ヘルメット着用を含めた交通安全指導、身だしなみ・服装指導を重点的にを行い、生徒の安全、地域の信頼を得るための実践を続けていく。

(4) 学校行事、ホームルーム活動等

学校周辺の清掃活動や地域のボランティア活動等を通して、地域に根差した相互交流をさらに深めていく。

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 参加なし 企画調整会議 参加なし

【成果】 次年度以降、参加に向けて検討する。

7 その他

- ・生徒の学校生活が充実するための意見交換や入学者選抜の応募者倍率を維持していくための取り組みを協議した。